

～キレイを目指し、純粋に働く人たち～



pureera

 びゅあら
第4号

 ジメジメした季節。
 みなさんいかが
 お過ごしですか？

今月は

クリーン&クリーン 春日部工場

現在「株式会社クリーン&クリーン」は、本社の東北工場、北海道の札幌工場、埼玉県の春日部工場の3つの工場が稼働しています。

春日部工場は、三甲リース株式会社様の東日本折り畳みコンテナリース製品の洗浄専門工場として平成23年6月に設置されました。同時に当社が一括請負事業を開始してから、今年の6月で創業1周年を迎えました。三甲リース株式会社様とは東北工場でお取引があり、春日部工場設置のお仕事を頂くことができました。

現在の従業員はフロント社員7名、パート・契約社員117名、障害者5名の122名と、クリーン&クリーンでは唯一従業員が100名を超える大型工場です。



クリーン&クリーン

春日部工場

春日部工場は、平成23年6月に設置され、今年の6月で、創業1周年を迎えました。

365日24時間体制で稼働しています。総勢122名が午前・午後・深夜のシフトに分かれ、1日平均85名が働いています。仕分け部門・仕上げ部門・洗浄部門などに別れています。朝8時30分～25時30分までの稼働時間を5時間勤務を基本とし、3交代制をとっています。その他に深夜体制があり、20時～翌朝8時までの体制で稼働しています。

現在、障がい者は男性の知的障がい者5名が、1名の指導者の元で勤務しています。8時30分～15時30分までの固定勤務です。その他に障がい者の現場実習生の受け入れも積極的に行っており、隔月に3名程度2週間の受け入れをしています。

春日部工場の主な洗浄製品は折り畳みコンテナで、15種類の折り畳みコンテナの他、イチゴなどを納める中仕切りを洗浄しています。

春日部工場では、昼夜勤務・総勢122名体制がなせる業で1日3万6千枚、月間108万枚の枚数の実績があります。今年の7月からは、1日5万枚、月間150万枚を目指しています。



くみんなで乗り越えた

大型工場の苦難

今では軌道に乗り、落ち着きを見せている春日部工場ですが、クリーン&クリーンの新たな事業として工場がスタートしてからの一年間は、大型工場ならではの苦難を乗り越え続けた1年でもありました。

春日部工場はクリーン&クリーンにとって初めての大型工場であるため、これほどの大量製品を洗浄する経験がなく、生産性がなかなか上がりませんでした。

洗浄作業は、品種別に分ける「仕分け」と、シールやラベルを剥す「仕上げ」の二つの工程を経た後、洗浄→ラップ巻き→在庫管理というように作業は進んでいきます。しかし春日部工場では、毎日200枚積みのパレットが200組以上という大量の洗浄品が絶え間なく入荷するため、洗浄工程の流れに沿って行うことがとても困難でした。

また春日部地域では、農業世帯が多いためにパートに出る主婦層が少なく、高齢者も農業従事者が多いため、中々パートが集まらずに苦労しました。また農作業による季節変動の休みや就業時間の変更もあり、従業員の定着も教育もままならず、なかなか軌道に乗せることができませんでした。

春日部工場が苦しいと

きは、東北工場から障がいのある従業員が、今までに657回ほど仕分けと仕上げの応援にかけつけました。「作業の速さと真面目さに、春日部工場の従業員は関心しました。また、東北工場からの応援者も、自分が応援に行っている。春日部工場の障がいのない従業員たちと一緒に頑張っている。との思いもあり、充実していたように思います。」と、春日部工場の仲本隆志さんは当時のことを振り返ります。

春日部工場設立当初は、スタッフも仙台からの転勤による社員が大半でしたが、今は全員が現地採用のスタッフで構成され、現在は目標がクリア出来るようになりました。

苦勞の絶えない1年ではありましたが、それでも従業員が一致して目標に取り組み、真剣に目標達成のために協力してやることで、今に至ることができています。

これから春日部工場は、1日5万枚そして6万枚と拡大傾向にあります。その中で、どの様にスムーズに生産性を挙げていくかが課題です。そして作業進行の可視化をして行く事、従業員の定着と採用も課題の一つです。

今までは工場2階の休憩室に事務所を間借りしていましたが、7月12日には、プレハブではありませんが、ようやく事務所も出来そうです。まだまだ発展途上の職場ではありますが、春日部工場には活気が溢れています。

